

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
52	2006/4/14	60052	富士製薬工業株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	妊婦の尿抽出物	中国、ブラジル	有効成分	有	無	無	異型クローン フェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月27日	中国におけるトリインフルエンザの近況。中国保健省はH5N1型トリインフルエンザウイルス感染と新たに確定診断されたヒト2例を報告した。2例とも危篤状態である。
												ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日目の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
53	2006/4/14	60053	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	ニュージーランド、米国、オーストラリア	有効成分	有	無	無	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
54	2006/4/14	60054	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ又はブタの肺	ウシ：ニュージーランド、ブタ：デンマーク	製造工程	有	無	無	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
55	2006/4/14	60055	シオノケミカル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	有	無	無	細菌感染	Pediatr Infect Dis J 2005; 24: 1099-1103	新生児集中治療室(NICU)で発生したRalstonia pickettii菌血症患者18例について、非感染のNICU乳幼児を対照として、比較検討試験を行った。統計的に有意な危険因子は示されなかったが、感染群は全員、病院内の薬局で調剤されたヘパリン灌流を受けていた。
												細菌感染	J Hosp Infect 2006; 62: 250-251	ヘパリンの静脈内注入に関連したAgrobacterium tumefaciensによる菌血症3例を報告した。患者から分離された菌は異なる株であった。全例ともカニューレをはずすことで症状は回復した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
56	2006/4/17	60056	サノフィアベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			
57	2006/4/17	60057	サノフィアベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
58	2006/4/17	60058	サノフィアベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、リトアニア、ポーランド、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、スロバキア、チェコ共和国	製造工程	無	無	無			
59	2006/4/18	60059	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	マウスモノクローナル抗体	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞のハイブリドマ	イギリス	製造工程	無	無	無			
60	2006/4/18	60060	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ヤギIgG	ヤギ血液	米国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
61	2006/4/18	60061	株式会社ベネシス	乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理 抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者から、ダニ媒介性キヤサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健康者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健康者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMed20060225-0819	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
62	2006/4/19	60062	財団法人化学及血清療法研究所	人免疫グロブリン ヒスタミン加入免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウィルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウィルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
63	2006/4/20	60063	三共株式会社	トロンピン	トロンピン	牛の血漿及び肺	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
64	2006/4/20	60064	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンピン画分 アプロチニン	ヒトアルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	添加物	有	無	無	バルボウィルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウィルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
65	2006/4/20	60065	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンピン画分 アプロチニン	アプロチニン	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
66	2006/4/20	60066	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンピン画分 アプロチニン	アンチトロンピンⅢ	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	無	無	バルボウィルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウィルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
67	2006/4/20	60067	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ウマコラーゲン	ウマアキレス腱	フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア	支持体	無	無	無			
68	2006/4/20	60068	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	トロンビン画分	ウシ血液	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
69	2006/4/20	60069	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	トロンボプラスチン	ウサギ脳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
70	2006/4/20	60070	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
71	2006/4/20	60071	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ヒトフィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
72	2006/4/20	60072	日立化成工業株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	レプトスピラ症	第88回日本細菌学会関東支部総会	動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、アメリカモンガが感染源であった。分離株は Leptospira kirschneri serovar Grippotyphosaと同定された。
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2005年第51週、52週合併号: 15-16	WHO/CSR 2006年1月5日の報告。トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												寄生虫感染	第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日	平成16年8月に長野県での水泳合宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起こったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第2週: 17-18	Nature 2006; 439: 248-249の報告。トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。トルコの株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ヒトに感染しやすくなっている。
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第3週: 13	2006年2月2日にWHOが発表した、2003年から2006年までのアジアにおけるヒトでのH5N1亜型トリインフルエンザの国別確定症例数および死亡例数を掲載している。感染地域が徐々に拡大している。WHOは現在のパンデミック警戒レベルをフェーズ3としている。
												インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第4週: 5-7	日本におけるインフルエンザの定点当たり報告数は全国レベルで32.4(報告数151,878)となり、増加が続いている。分離報告の99.7%がA型であり、その多くがAH3型である。インフルエンザの流行は西日本から東日本に広がりつつあり、引き続き注意が必要である。
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 6020-6026	ザンビアで2週間以上、結核の症状を呈した213例の患者(69%がHIV陽性)の喀痰を検査したところ非結核性マイコバクテリア(NTM)が90例から分離された。無菌部位からの検体25例中8例がNTM陽性であったが、このうち4例からMycobacterium lentiflavumが、1例からMycobacterium goodiiが分離された。両菌の感染がアフリカで示された初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	感染症雑誌 2006; 80: 56-57	平成17年8月24日から28日までプエルトリコ、その後ロサンゼルスへ出張し、9月4日に帰国した30歳男性が、発熱、頭痛、両上下肢に紅斑丘疹を呈した。日本脳炎HI抗体が高値であったためウエストナイル(WN)ウイルス感染を疑い血清・病原体検査したところ、IgM捕捉ELISAと中和抗体検査が陽性であり、WN熱と確定診断した。
												レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第10週: 5-7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は日本では例年冬季から夏季にかけて報告数の増加がみられる。感染症動向調査によれば、2006年は1996年以降の過去10年間と比較して、報告が最も多い状態が続いている。
												感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第11週: 3	日本における2006年第11週(3月23日集計)の5類感染症の定点把握結果を報告した。小児科では咽頭結膜熱が第5週以降、増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。マイコプラズマ肺炎は増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
73	2006/4/20	60073	日立化成工業株式会社		アレルギー性疾患患者から抽出、精製した抗アレルギー物質	ヒト尿	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 6020-6026	ザンビアで2週間以上、結核の症状を呈した213例の患者(69%がHIV陽性)の喀痰を検査したところ非結核性マイコバクテリア(NTM)が90例から分離された。無菌部位からの検体25例中8例がNTM陽性であったが、このうち4例からMycobacterium lentiflavumが、1例からMycobacterium goodiiが分離された。両菌の感染がアフリカで示された初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2型のア型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業員の健康調査を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	感染症学雑誌 2006; 80: 56-57	平成17年8月24日から28日までプエルトルコ、その後ロサンゼルスへ出張し、9月4日に帰国した30歳男性が、発熱、頭痛、両上下肢に紅斑丘疹を呈した。日本脳炎HI抗体が高値であったためウエストナイル(WN)ウイルス感染を疑い血清・病原体検査したところ、IgM捕捉ELISAと中和抗体検査が陽性であり、WN熱と確定診断した。
												レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第10週 5-7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は日本では例年冬季から夏季にかけて報告数の増加がみられる。感染症動向調査によれば、2006年は1996年以降の過去10年間と比較して、報告が最も多い状態が続いている。
												感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第11週 3	日本における2006年第11週(3月23日集計分)の5類感染症の定点把握結果を報告した。小児科では咽頭結膜熱が第5週以降、増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。マイコプラズマ肺炎は増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
74	2006/4/21	60074	第一アスピオファーマ株式会社	インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	感染	ProMed20051030-0050	ナイジェリアJigawa州で原因不明の疾患により54人もの小児が死亡し、数人が危篤である。この奇病は、高熱で始まり、2-5歳の小児が感染する。最初、発疹が現れ、まもなく死亡する。現地の医療当局は調査を開始した。
												鳥インフルエンザ	ProMed20060217-0090	2003年にアジアでトリインフルエンザが広がり始めて以来、25家族の感染が報告されている。兄弟、親子などの血縁が関係する場合は圧倒的多数で、夫婦とも陽性だったのは3家族に過ぎない。同じように感染した鳥に暴露しても発病率に差があることから、遺伝的に感受性の高いヒトがいる可能性がある。しかし、感受性を遺伝子に結論付けるには時期尚早である。
												感染	ProMed20060322-0040	アンゴラHuambo州Tcholindi村で原因不明の疾患により10人が死亡した。患者は、まず脚が冒され、次に腸に広がり、1週間以内に死亡する。公衆衛生の専門家が近いうちに現地調査をする予定である。
75	2006/4/21	60075	東菱薬品工業株式会社	バトロキシボン	バトロキシボン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
76	2006/4/21	60076	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	無	無	無			
77	2006/4/21	60077	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	インスリン	ウシ脾臓	米国	製造工程	無	無	無			
78	2006/4/21	60078	バイエル薬品株式会社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロップを持つウイルスだけでなく、エンベロップを持たないウイルスも高率に除去された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。
79	2006/4/21	60079	バイエル薬品株式会社	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ脾臓	米国	製造工程	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6000倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency HP 2006年3月3日	2006年1月12日、カナダのアルバータで異常な運動と姿勢を呈した69月齢のウシがBSEと診断された。カナダにおける4例目のBSE報告である。2003年以來88,000以上の検査が行われ、陽性例は4例しかないことから、カナダでのBSE発生率は極めて低いと考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
80	2006/4/21	60080	バイエル薬品株式会社	人血清アルブミン オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	有効成分 製造工程	有	有	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返し返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液の中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21 日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/miまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体8例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロップを持つウイルスだけでなく、エンベロップを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトアリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
81	2006/4/21	60081	バイエル薬品株式会社	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	有	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロプを持つウイルスだけでなく、エンベロプを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトTリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
82	2006/4/21	60082	バイエル薬品株式会社	加熱人血漿たん白 オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	有効成分 製造工程	有	有	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21 日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロプを持つウイルスだけでなく、エンベロプを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトTリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。
83	2006/4/21	60083	バクスター株式会社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			